

三陸の海を放射能から守る
岩手の会

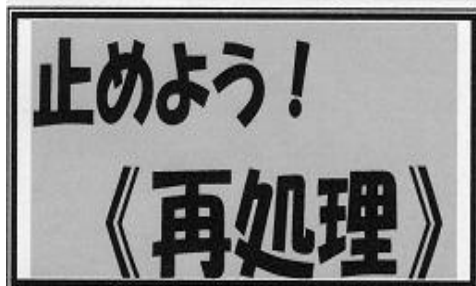
ミニコミ通信 第33号

<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>

《岩手の環境 / R I 廃棄物 / 再処理》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag

《まった再処理分庫》



2007 (平成19)年

2月 26日

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

郵便振替

02240-5-102650

放射能を流さぬ! ことを求める署名



漁業者と消費者の連帯を!

国への要請事項

- 一、海に、空に、放射能(放射性物質)を放出しないこと。
 - 二、核燃料再処理工場の廃水・排気は、放射能除去装置で放射能を取り除いたのちに放出する事
- 取り扱い団体 三陸の海を放射能から守る岩手の会

きれいで安全な海を守りぬこう
六ヶ所村の再処理工場から放射能廃液が下北の海に流されはじめました。原発も大型化学工場もなく、きれいな海で漁業を営んできた三陸の海が、汚染されようとしています。

今なら間に合う

本格操業が始まる前の今のうちに、放射能の海や空への垂れ流しをストップさせるために、国への要請署名を提起します。

みんなで取り組もう

内容は標記のとおりです。趣旨に賛同される方はどなたでも署名出来ます。署名用紙はマスプリしてどんどん集めましょう。



七月に国へ要請行動



誰もが放射能に汚染されたものを食べたくないはず。しかし国民が知らないうちに、巨費を投じて海に放射能を流す工場が本格操業に入ろうとしています。多くの国民がこの事実を知り、放射能の垂れ流しはダメだ」と声を挙げれば、放出をやめさせる事が出来ると信じています。

「今なら間に合う」。一人でも多くの署名運動への参加を御願います。

誰でも取り組める運動です

この署名運動は、趣旨に賛同出来る方ならどなたでも署名していただけます。理解出来るのであれば子どもさんでも可です。自分たちのこれからの生活に関わる問題ですから。

一、海に、空に、放射能(放射性物質)を放出し

ない事

放射能を海に垂れ流すなどと云うことは「環境の世紀」の現代に、あつてはならないことです。「海に出してしまえば薄まるから大丈夫」などという論がどうしてまかり通るのでしょうか。

食物連鎖によって、生体に入り込んだ放射能は、微量でも、細胞に致命的なダメージを与える危険があります。

二、核燃再処理工場の廃

水・排気は、放射能除去装置で放射能を取り除いたのち放出する事。

再処理工場の放出放射線物質のかなりの部分はトリチウムとクリプトンです。この二つの核種については、排出する前から分離・除去し環境に出さない技術がすでに完成しているということですから、その証拠に、日本原燃(株)が、一九八八年一月に青森県議会へ提出した資料の中の「再処理工場設置図」には、「トリ

チウム、クリプトン除去装置建屋」がきちんと記載されています。それが、何故か、国への申請書には記載されておらず、実際に建設された再処理工場にも設置されていません。少なくとも現在の法体系に従うならば、核施設からの放射性廃液、排気はすべて、一般原発と同じレベルまで取り除かなければ、環境へ放出してはなりません。

署名用紙は、ホームページからプリントアウトして下さい

署名用紙は、増刷して、出来るだけ多くの方々から集めて頂ければ幸いです。

「岩手の会」のホームページには、「署名呼びかけ」の欄に、「署名用紙」がありますので、ご利用下さい。

「岩手の会」ホームページ

岩手の環境/R.I.廃棄物/再処理
また再処理分庫

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_img

集約は「岩手の会」事

事務局まで
集めて頂いた署名簿は「三陸の海を放射能から守る岩手の会」の事務局まで送付ください。

事務局の所在地は
〒01010004
盛岡市山岸六三六一八
永田文夫 宛
電話
01966110011

なお、この署名運動は、当「岩手の会」と、岩手県三陸海岸住民でつくる「豊かな三陸の海を守る会」と協同して、全国各地の市民や団体に呼びかけ進めています。

七月の参議院選挙後を予定していますが、大勢の方々の署名を携えて、内閣や国会へ要請行動を行いたいと考えています。

集約日
第一次集約 四月末日
第二次集約 五月末日
最終集約 六月末日
(予定)

多くの皆さんの創意ある署名運動取りくみを御願致します。

再処理工場

日本原燃(株)ホームページ「二月報告」
放出回数 五回
廃液量三二一キログラム
放出トリチウム
六六兆ベクレル
(原燃規制濃度の三四一倍)
(経口致死量一六九人分)
ヨウ素129
三四〇〇万ベクレル
ヨウ素131
一〇万ベクレル

放出トリチウムの累計は三九四兆ベクレルとなりました。三月が近いのに昨年一二月の資料が最新資料です。

同工場は一月六日にアクティブ試験第二ステップを終了し、一月二九日から第三ステップに入りました。二月四日から八日までの四日間に約八トンの使用済み核燃料をせん断した模様です。何故か八日以降せん断が止まっていたようですが、二五日からまた始まりました。宮古の漁業関係者の話では、今冬の三陸沖は暖冬の影響か、キタン(北向きの潮)が強い日が多いとも聞きました。日本原燃は四月以来の放出廃液の拡散分布状況について一切公表していません。